

稚内港における大型クルーズ船に 対応した岸壁の改良について

稚内開発建設部 稚内港湾事務所

はじめに

稚内港は、昭和32年、我が国最北の重要港湾に指定され、道北地域における物流流通の拠点、北方漁業の基地、そして利尻・礼文やロシアへの連絡港として、地域産業の発展のため重要な役割を担っています。

稚内港の管理者である稚内市では、平成27年10月に策定した「稚内市・ひと・まち・しごと創成総合戦略」において、大型クルーズ船の寄港に対応できる観光拠点を目指しています。

しかしながら、稚内港において、大型クルーズ船の寄港要請はあるものの、これらのクルーズ船は、稚内港での入港想定船舶である3万トン級貨物船の船型を大きく越えることから、安全な離着岸および係船が確認できず、要請を断らざるを得ない状況にあります。

このため、既存岸壁を有効活用した上で、大型クルーズ船の安全な係留を可能とし、政府の目指す「2020年に訪日クルーズ旅客500万人」の達成に資するため、クルーズ船の受け入れに必要となる施設の整備を進めているところです。

計画の概要

大型クルーズ船の係留は、稚内港末広ふ頭地区の-12m岸壁とすることを想定しています。現在この岸壁は、延長が240mとなっていますが、対象とする大型クルーズ船の船長が290m超であることから、これを改良して、延長350mとすることを計画しました。

岸壁の延伸については、一般的にケーソン等により岸壁本体を整備した後、背後用地を確保するために埋め立て等を行いますが、建設には長期間を要し、また多額の費用が発生します。クルーズ船社からは、稚内

港寄港の要請が強くあり、早急な対応を求められていました。

これに対応するため、既設の岸壁を最大限に活用し、かつ、大型クルーズ船の安全な係留を経済的に実現するため、重力式(ケーソン式)のビットを2基設置することとしました。ビットには2000kN型の係船直柱を設置し、また、既設の岸壁上にも同等の係船直柱を2基、ならびに、1000kN型の係船曲柱を3基整備して、大型クルーズ船を受け入れる計画としています。

既設岸壁に設置されている防舷材(V型800H1200L)についても、大型クルーズ船に対応するため、改良を行いました。既設の岸壁本体はスリットケーソンとなっているため、防舷材の形状が限定されることから、高性能防舷材とすることで、既設防舷材と同サイズでありながら大型クルーズ船の接岸力への対応が可能となりました。

また、既設岸壁のエプロンは老朽化が進み、健全度の低下が著しくなっていたことから、エプロン舗装の打ち換えも行うこととしました。

施工の概要

先述のとおり、ビットはケーソン(L=8.1m、B=8.1m、H=9.7m)による重力式であり、ケーソンの製作は、函館港からケーソン製作用台船(FD、鋼D3700t)を回航し、稚内港末広ふ頭の近隣にある天北2号ふ頭において行いました。

また、既設岸壁上の施工に際しては、岸壁供用中の施工であることから、岸壁上での陸揚げ作業の妨げとならないよう、施工区間を2分割し、施工することとしました。

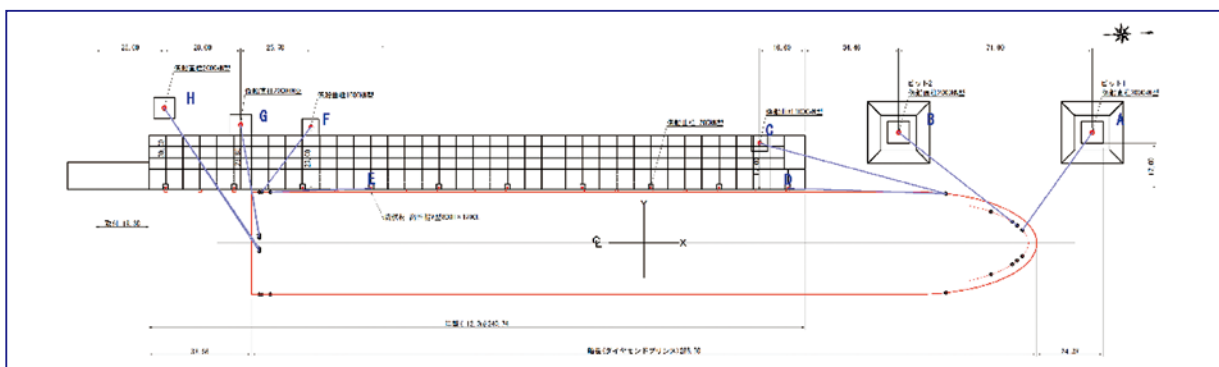


図-1 大型クルーズ船係留イメージ



図-2 施工区間の分割と後行区間を利用した陸揚げ作業



図-3 ビット完成状況

おわりに

ビット及び既設岸壁上での作業は、平成 29 年度に完了する予定で、岸壁の供用は、平成 30 年度の供用開始を目指しています。

また、既設岸壁からビットへの、陸上からのアクセス通路として、連絡橋の架設も予定されているところです。

稚内港への大型クルーズ船寄港を目指し、引き続き整備を進めていきます。



図-4 完成イメージパース図（稚内市提供）

■「第 14 回みなと座談会」の開催

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構

「第 14 回みなと座談会」を 10 月 19 日(木)に室蘭市で開催しました。

今回は地元室蘭で活躍しておられる「みなとまちづくり女性ネットワーク室蘭」の 6 名を始め、全道各地で「みなとまちづくり」の活動を進めておられます「女性ネットワーク」代表 5 名に参加していただきました。

「みなと座談会」は、北海道みなとまちづくり女性ネットワークの協力を得て、みなとを核としてまちづくりを女性の視点から考え、各地域の活動を通じた意見交換の場として、港湾都市を中心に平成 16 年から毎年開催しており、今年で 14 回目となります。

開催の始めに、北海道みなとの文化振興機構中村信之理事長、室蘭市東平伸副市長、室蘭開発建設部根本任宏次長(港湾・農業・水産)からご挨拶をいただき座談会に入りました。

今年度は、昨年に引き続き「わくわくするみなとまちづくりに向けて」をテーマに苫小牧、室蘭、函館、

紋別、釧路、稚内、の代表 6 名による今年度の代表的な活動報告を受け、参加者全体による活発な意見交換を行いました。

ご多忙の折、座談会にご出席していただいた室蘭市、北海道開発局港湾空港部、室蘭開発建設部、室蘭港湾事務所の皆様、みなと座談会に向けご協力いただき厚く御礼を申し上げます。

